

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201645		
法人名	有限会社 グループホーム すだお		
事業所名	グループホーム すだお		
所在地	長崎県佐世保市須田尾町18-1		
自己評価作成日	平成22年02月10日	評価結果市町村受理日	平成 22年 4月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年3月2日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者本位の安全で快適な居住空間を提供します、 食事内容の充実に力を入れています、 健康管理面では看護師2名により充実を図っています、 医療体制は介護保険施設もある、梶田医院に嘱託医をお願いしてあり夜間などの状態の変化にも安心してご利用して頂けます、 入居に際しての権利金、保証金、敷金、などはありません

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐世保駅から車で5分のところにある“グループホームすだお”は、潮見小学校の隣にあり、子供たちの元気な声が聞こえてくる。小学校の運動会を見学に行ったり、子供たちから花の苗のプレゼントを頂くなどの交流が行われている。佐世保港を眼下に見わたす高台の住宅地に位置しているため、2階のリビングからの眺めは最高で、ベランダには子供たちが植えた色とりどりのパンジーがプランターに植えられている。職員は家庭の主婦が多く、和食を中心とした家庭料理に力を入れておられ、ご利用者が好まれる煮物や魚料理に工夫が施されている。ホーム開設から7年目を向かえ、開設当初から入居されているご利用者も多く、重度化の傾向にある。理念にある“明るく、楽しく、笑い声のたえないホーム”を目指しケアに取り組まれてきたが、ご利用者同士のコミュニケーションも難しくなってきた中で、ご利用者に楽しんで頂けるようにと、懐メロの歌番組を録画して観て頂くなどの工夫も行われている。看護師を中心に、ご利用者の体調管理が行われおり、職員の気づきが異常の早期発見につながっている。グループホームならではのケアの実践に向け、取り組まれているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有については皆が理解をし心にかけているが、入居者の方のレベルの変化もあり実践について日々の作業の中では十分に理念の個々の項目にそっての行動となっているとは言えない	「私たちは、利用者第一主義に徹します。手と手を取り合って支えあい、共に過す喜び。明るく、楽しく、笑い声のたえないホーム。一人一人がその人らしく生活する為に皆で作るマイホーム。」を運営理念としている。個別の希望に添った支援を心がけ、行事やレクリエーション等、楽しそうにされている時に理念が実践できたと感じる。	ご利用者の心身状況に合わせ、ホーム内から近くの公園など、活動範囲を広げるなど、更に個別に対応を図りたいと考えられている。以前のように、明るく楽しい笑い声がたえないホームに近づく努力をされており、今後の取り組みに期待していきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、役員の方との連携を行うことによりホームの実態を理解してもらうようにしている	小学校の運動会見学では、子供たちがご利用者のために、椅子を運ぶなどの気遣いをして頂いた。小学生との交流会では、子供たちが花の苗を持参し、プランターへの植えつけまでして頂いた。敬老会には、ご家族やボランティアの方をお招きしたが、インフルエンザの流行に伴い、主治医の指示もあり、夏以降の外部との接触は控えられた。	外出を控えたことで、地域の方々との交流が減った。春になったらお花見などの外出を行い、地域の方々との交流を再会する予定とされている。また、ご家族も一緒に外出できるようにしていきたいと考えられている。今後の取り組みに期待していきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事例は無い		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価への取組状況や報告は行っているが、内容についての意見や、提案はあまり出していない	ご利用者家族・民生委員・市の職員・他施設のケアマネージャーに参加頂き、奇数月の第3火曜日に開催されている。ご利用者の状況や運営に関わる事項の報告等が行われている。民生委員の方に参加頂いているので、町内の行事等について、多くの情報を得る事ができるようになった。	ホームからの報告が主な会議内容となっており、参加者からの意見、質問等を十分に引き出せていなかったと代表は考えられている。会議の内容について、参加者と一緒に検討されみてはいかがであろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の管轄となってからは、手続き上の相談なども直接窓口に行くようになり、頻度は増えている	代表の家から市役所が近いということもあり、郵送でよい書類も窓口を持参されることが多く、市の担当者とお話する機会も多くなっている。ご利用者の方の支払いが滞納した時に、対応策を相談に行ったり、身寄りのない方が亡くなられたあとの対応について相談し助言を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	はい	外部研修に参加した職員が、参加できなかった職員に伝達研修を行った。玄関は日中自由に出入りが可能で、夜間のみ防犯上の目的で施錠されている。1名の方は、ベットから起き上がった時に職員が介助できるように、夜間のみセンサーをセットする事をご家族と相談し、ご本人に説明が行われた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2名が長崎県身体拘束廃止推進員養成研修を受講済み		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度についての講習を受講済みだが、実際に対応した事はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に従い十分に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会に来られた時、気軽に話をしたりして、話しやすい雰囲気は作っているが、こちらから家族の方をお願いすることはあるが家族の方からの特別な意見や要望はほとんどない	法人・事業所として、第三者委員を設置している。開設から7年目を迎え、ご家族との付き合いも長く、率直にご意見を言ってくれる関係ができています。2ヶ月に1回、ご利用者の日常生活や身体の様子が細かく記載された、近況報告書も郵送されている。ご家族面会時には、代表、職員含め、ご家族に声をかけるように配慮しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的に前向きな意見に対しては取り入れるようにしている	職員より、季節に合わせた手作りの催し物や草花の苗の購入など提案があり、必要な材料等を揃える為の支援が行われた。職員からの意見も多く、カンファレンスの中で「意見箱を作っては？」との意見もあり、近々作成が予定されている。ご利用者への誕生カードや掲示物など、職員のアイデアが活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の方はほとんどが主婦の方であり勤務時間や休日など働きやすい環境作りには特に力を入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等への参加希望者には優先的に配慮を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加は管理者が行っており、その他の交流の機会も職員は時間的に制約があり参加できないことが多く実施できていない		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本的に入所前に本人との面会を行いコミュニケーションをとっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本的に入所前に本人と同様、面会を行い情報の収集、アセスメントの作成を行い、家族の要望を把握するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に関わりのあった他の施設やケアマネージャー、行政の担当者の方の意見を聞き入所前のケアプラン作成の参考とする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が、ホームの基本的な方針として理解し、家庭的な環境作り、対応に勤めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	重要事項説明書の説明に基づき、本人の孤立感の防止のための家族の協力要請と、入所後の家族との連携強化に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方の把握はあまり出来ていない、家族との連携不足	馴染みの美容院を利用して頂いたり、ご家族の協力で墓参りを継続されているご利用者は多い。ご家族も、ご利用者と一緒に生活されていた時期が短く、馴染みの人や馴染みの場所を把握されていない方も多い。入居当初、馴染みの方が面会に来られていたが、顔を合わせてもわかられないことから、徐々に面会が少なくなった。	お墓参りは多くのご利用者が継続されており、ご家族、ご親戚の方々との関係が、今後も継続されることを期待したい。ご利用者との会話の中から、馴染みの人や馴染みの場所など、把握のための取り組みの継続を期待していきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現状では不穏状態となり、利用者同士のトラブルとなることが多くなっており、悪化を防ぐために職員が間に入り収めるような状況が増えている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や、他の介護施設などへの移動後も面会に行くようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の打ち合わせ、月1回のケアカンファレンスなどで、職員の気づいた事、本人との会話の中で把握したことを、本人の希望として家族との面談の中で話し合い、対応を図っている	ご本人との会話を通して、好きな本を読みたい、物を書いたりしたいなど、一人ひとり意向を伺っている。意思疎通が難しい方も、職員がご本人に寄り添いながら声かけを行ったり、表情や行動から、気持ちを汲み取る努力を行っている。また、ご家族が感じておられることなども伺い、話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、他の介護支援機関、行政などからの情報収集		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中で把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状ではケアスタッフ中心の介護計画であり広い意味でのチームケアとはなっていない、特に本人、家族の意向、意見の反映が不十分である	新規のご利用者については、計画作成担当者が計画を作成し、介護計画の見直しについては計画作成担当者を中心に、ケアカンファレンスで検討が行われている。3ヶ月に1回、計画の見直しが行われているが、体調などに変化が見られた場合は、期間の前でも計画の変更が行われている。	地域との交流も行われており、「地域で暮らす」という視点で、課題・目標に盛り込まれてはいかかであろうか。また、サービス担当者は職員のみ記載となっており、ご本人やご家族、かかりつけ医が担っておられる役割もあり、計画に盛り込まれてみてはいかかであろうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の日誌のほかに、食事の摂取表、入浴時の身体チェック表、排便チェック表などにより、職員間で状態の変化などを早期に発見し、対応が出来るようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの行事などは、報告だけではなく、家族への参加も図っていききたい		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身の状態が安定し、安全が確保できる方については、出来る限り地域の行事にも参加をしていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今は入居者全員が協力医療機関の嘱託医が主治医となっている、毎週の往診や、緊急時の対応、診療科目によっては適切な医療機関を紹介していただいたり、緊密に連携が取れている、	ご利用者全員が協力医療機関を主治医とされている為、基本的には毎週の往診で対応している。必要時は職員が通院介助を行っている。ご家族付き添いで通院の場合、受診結果はホームの看護師が必ずご家族より聞き取るようにしている。ホームからの報告は急ぎでない場合は、2ヶ月に1度の近況報告書でご家族へ連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の往診時にホームの看護師が個々の利用者の状況を報告し指示を受けるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通して入院時の医療機関との連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族との話し合い及び提携医療機関、施設とも連携を行っている	設備の関係でホームでの看取りは行っていない。医療機関や他の施設との連携が図られている。重度化した場合は、協力医療機関の医師が対応して下さることを説明し、次の生活の場所等の相談窓口になり、支援していくことを説明されている。入居時及び、その様な時期が近づいたと思われる時、事前にご利用者、ご家族と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、利用者ごとの対応や、医療機関との連携などは決めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っているが、実際に行ってみると、ご利用者の避難誘導は難しいと理解している	災害時、近隣の方と職員に連絡ができるように、緊急連絡簿があり、すぐに駆けつけて頂ける体制となっている。2階の窓から隣の敷地に避難できるように、橋が掛けられている。訓練の日程が合えば、消防署の方に参加頂いている。シートを使った避難方法の練習も行われた。缶詰、果物等の食品や飲料水等、災害に備え準備されている。	ご利用者の心身状況に合わせ、実際に災害があった場合は、全員救出できるか不安が残ると考えられている。地域の方や消防署の方、ご家族を含めて対応策を再度検討されてみてはいかがであろうか。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付けているつもりでも、親しみや慣れのために、そのような事が発生するときが見られる	本人の意思を尊重し、心のこもった対応を職員は心掛けており、いつもご利用者に接する際は、尊敬の念を忘れずに言葉遣いに気を付けている。名前を呼ぶ際も「○○さん」と呼びしている。職員は、個人情報保護法を理解し、記録物の管理に注意し、情報漏洩しないなどの対応が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、本人の意思を尊重した対応に勤めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはその様にしているが、すべて本人の希望通りに、対応、支援が出来ているとは言いえない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に行事や、外出などのときは、日常と違った、身だしなみやおしゃれに、気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状では、一部の方が他の入居者が手伝うのを見て拒否などが見られた為、食事の準備などに関してはほとんど参加して頂いていない、調理に関しては衛生面の心配があり参加して頂いていない	職員が、彩りに配慮しながら、栄養のバランスを考えた献立を立てている。ご利用者が好まれる魚や果物を多く採り入れ、旬の野菜など使った、和食中心の食事が提供されている。誕生日には、職員手作りのケーキを召し上がって頂き、ご利用者に喜んで頂いている。おぼん拭きやテーブル拭きなど、ご利用者と一緒に行っている。	献立がマンネリ化しないように、時には洋風のメニューを盛り込むなど、検討していきたいと考えられている。料理が得意な職員が多く、職員のアイデアを盛り込んだ、更なる取り組みに期待していきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や、水分の摂取量については健康維持のため特に気を付けている、食事は摂取量の記録をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の方それぞれの状態にあわせ実施している		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、一部の方の夜間を除きオムツは使用せず誘導によるトイレでの排泄介助を基本としている	日中はトイレ誘導を基本とし、オムツは使用していない。一人ひとりの排泄感覚に合わせて、ご本人のその日の状態や希望に合わせた援助が行われている。周囲の方に聞こえないようにトイレ誘導の声掛けをしたり、間に合わなかった時は、シャワー浴など行っている。居室にトイレがあるため、夜間もすぐに対応できるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については、健康管理の重要項目として、管理表を作成し、原因の把握や、服薬によるコントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は、月、水、金、と入浴の曜日を決めている、一人一人の希望やタイミングについては、声をかけるときなどに話しているが、拒否の方には通用しない	週3回入浴して頂いているが、行事などで入浴できない場合は、時間や曜日を変えて入浴して頂いている。入浴を好まれない方もおられ、「花を見に行きましょう」など、声かけを工夫して浴室へ誘導するなどの対応を行っている。入浴時に、ご利用者の身体の状態を確認し、気づいた事を職員が書く“身体チェック表”を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態にあわせ、実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に主治医との連携を図り、状態の変化に対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の楽しみへの対応が多くなっており、入居者同士でのレクリエーションなどは少なくなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の庭での花摘みや、周りへの散歩程度の外出のみである	年間行事として、大崎半島や展海峰へ季節の花を見に出かけている。ご利用者の状況悪化やホームの周辺に坂が多い環境ということもあり、日常的に外出はあまりできないが、敷地内を散歩しながら花植えをしたり、商店街へ買い物に行くなど、個別の外出支援が行われている。外出を好まれない方へは、なぜ外出を好まれないのか考え、興味があることや気候を見て、外出をしていきたいと考えられている。	ご利用者の状況悪化等で、以前に比べ外出頻度が少なくなって来ている状況にある。暖かくなったら隣の小学校の桜や、ホーム周辺のお散歩など、近場への外出も計画されており、今後の取り組みに期待していきたい。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族宛の年賀状を出すように支援を行った 電話に関しては、不穏時を除き、基本的にかけて頂くように支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活観や季節感の演出をするだけでなく、それに関連した会話や歌や物を作ったりということが不足しているように思われる	2階のベランダにはプランターが置かれ、小学生が植えてくれた花を眺めながら、眼下の海を見わたすことができる。ご利用者は、日中、リビングでゆっくり過ごす事が多く、昔の歌番組をビデオで観て頂いたり、CDをかけて聴いて頂いている。曲に合わせて楽しそうに歌っておられるご利用者もおられる。行事に合わせた飾りや写真が壁に貼られ、階段には、小学生からのクリスマスカードや年賀はがきなどが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所作りは出来ているが、利用者の方がお互いに楽しく過ごせるようなコミュニケーション作りの支援が思うようにできていない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持込に関しては、本人の要望があれば、家族との連携を図ったりして対応している	各部屋ごとにトイレと洗面所があり、備え付けのクローゼットもあり、部屋を広く使って頂いている。たんす、仏壇、テレビ、人形、写真等、ご利用者の希望に沿って、馴染みのものや使い慣れた物を、ご家族と相談して持ってきて頂いている。ご利用者が作った作品や、職員手作りのパースデーカードが部屋に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の安全性に関しては、新たに改善できるところはそのつど実施している		

事業所名: グループホーム すだお

作成日: 平成 22 年 4 月 19 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者の方の状態の悪化により人手が足りなかったりインフルエンザの流行などの要因はあったものの、以前に比べ日常的な外出支援が少なくなっている	春、秋の花見、行楽、食事会などの年間行事としての外出については、今後も入居者の方が全員参加が出来るように計画を立て実施する、また日常的な外出支援に関しては、個別の希望も考慮し頻度を多くする	短時間勤務者の採用など人員の確保を図る、職員全員が日常の勤務の中で作業予定として優先して取り組むように意識し連携を図る、近くへの散歩や庭の花を摘んだりなど短時間の外出頻度を多くする、家族への協力依頼を行う	3 ヶ月
2	51	以前に比べ家族との交流が少なくなっている、入居者の方の中には孤立感を感じている方が居る	入居者の方からの手紙や、家族の方の了解をもらっての電話などを支援する事により入居者の方と家族が疎遠とならない様にしていきたい	年賀状、暑中見舞い、季節の挨拶の手紙などを書けるように支援を行う、此方からの電話だけでなくご家族の方へお願いをして入居者の方に電話をかけて頂くようにする	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月